A. Haruno tawo, hito ni makasete, warewa tada ;
hana ni kokoro wo, tsukuru kyo kana.

B. Yamazato wa, monosabishikaru, koto wa aredo ;
yono uki yoriwa, sumiyo karikeri.

女學雜誌第貳拾二號目次

●社說。婚姻のをしへ(中)●新報數件●叢話。五音のかへし(其二)。西洋禮式(第六)。談話の禮。日本婚禮の風俗集(二)。東西女子の評(上)。束髮圖解(二)和崎結ひの圖二箇。●寄書。婦人問答(第一)。舊き都のつと●佳傳。梅香女子の傳(第八)●諸廣告

五月十五日

●人の稱え方 (其一)

●人に對して己の妻を稱ふるには。敝房、賤房、賤室、賤內、寒荊、拙荊、山妻、と云ふ

●人の妻を稱ふるは。令正、令閫、尊正、尊夫人、令室、尊內、尊嫂、と云ふ

●人に對して己の父母を稱ふるには。家父母、家嚴、家慈、及父に對しては。家君、家尊、家大人

●人の父母を稱ふるには。令尊、令堂、尊公、尊翁、尊堂、萱堂、北堂

●妻の父母を人に對して稱ふるは。妻父、妻母、家岳父、家岳母。歿して後は外考、外妣、

○人の妻の父母を稱ふるには。令岳翁、令岳母、令岳丈、令丈母

●伉儷は夫婦の事。夫を相るを內助。琴瑟に篤しとは夫婦睦じきこと。貧賤の妻を糟糠の妻。と云ふ

甲 春の田をひとにまかせて己れはたゞ花に心をつくる今日かな

乙 山里は物さびしかるとはあれど世のうきよりは住よかりけり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第貳拾三號（明治十九年五月十五日）

●社說

○婚姻のをしへ（中）

○○第二　當今の婚姻ハ不法意なり　浮世は旅路にして夫婦ハ道連なり此の旅路にハ艱難の山あり困苦の川ありて天も日々晴れわたるべき限にハあらず或ハ涙の雨にそぼ打たれ或ハ憂の露に身を置きて心の曇りがちなるべきと反つて常となるべし道連となりて此つぎ〳〵を行かむものハ互に相助け相ひ導きて事々に力とも杖ともなるべし若し道すがら相なぐさめんとハせず反つて相怨み相害ふの有様ならんにハ例へバ火を雨らす日に家に火災あるが如し浮世の旅路ハさなきだに苦しきものを其苦みハ彌が上に加はりて決句道連なきさみしさの優るともやあるべし今夫となり婦となりて此の世を渡らむものは宜しく相助け相なぐさむるの道連となるべし若し朝夕に爭ひつぎ〳〵に怨み合ふ中とならバ其同行は寧ろ獨り旅の心さびしきに劣るべきなり

試に世の父母たるもの思ふべし今二三日間の海路をすぎて其子を東京に送るとあらんにハ成るべく確かなる人を擇みて道連となさんことを願ふならん又其子たるものも未だ一面識なき人にして其心をも知らざるに伴ハれて門出せんとは思ハぬなるべし特に女ハ子ともてる父母と娘子とハ此の掛念尤も甚しからん僅々二三日の海路にして然も丈夫なる蒸氣船に乘ずるすら猶如此し然るに今ま一生の道連として此世の終まで旅させんと思ふ娘をあげて心も知れず情も分らざる人に嫁入らせんとし娘も亦た未だ一面識せざる人に其一身を托せんとするは太甚しき不覺悟ならずや然るに今日の婚姻を見るに父母も此の大不覺悟を行ひて顧みず娘も此の大苦腦にあひて免れざることあきらむるは抑も大なる不注意ならずや

吾人は女學雜誌第拾六号の社説に於て少く此の大不注意の改むべきことを説きたる節二三の實例を擧げて現今の有樣を示したれ繁華にしてやゝ開けたる三府五港のあたりにてハ最早婚姻の當夜に初めて一生の夫の顏を見るなどの奇談は少けれども僅に二三十里の山奧に入りて之を觀れバ婚姻の風習ハ依然として元の如き所尙甚だ多きなり先づ氏神天神の參詣に思ハず兩人をして相會せしむるか會席の落合にたまたまの盲を交へさして左て緣を結ぶの可否を問ふとあり此等ハ尙やゝ至れる所の處置なれども問ふ所は只だ男の心を問ふにあり女ハ其好に隨ひて善きも惡きも只だ擇バるゝまゝなり之より降りてハ寫眞の一瞥に心の奧の文をさぐり仲人の効能書に一生の道連と定る如き見合ひに品

ざまを遣れれて常夜に人違を勧弁し兩親の言付にすまぬ心を壓し着て不運とあきらむるなんど笑ふべく悲しむべき婚姻はいと〱多し始をつゝしまざる如此き夫婦にして一生の苦惱あらんとハ素より其の理なり婦とたゞ夫の家に奉公して儘ならぬハ女の恒とあきらめ夫ハたゞ婦と水使女と見做して事々に卑しむべきものと思ふ如此き道連の浮世をゆく其の不幸はたして如何んぞや

當今の婚姻ハ始みな此の樣の不注意に出づ一々其の實例をあぐれバ百の筆も何ほ禿とならん然れども今まゝ之を要して概畧すれバ其あやまりや二あり父母が巳の好に隨つて娘の夫を定ると一つなり娘が一生の夫を擇むに不注意なる二つなり

父母ハみな娘を愛そるものなが之が夫を擇むよ於でなんでう娘にあしかれとのみ祈らん皆成るべく善き夫にそハせて終身の安樂を得させんとごろ思ふなるべし其志はまことに善しと雖もさて其の志と實際に行ふの處置は十中ハ八九大抵そな過ちに陷るとなり蓋し父母が娘の爲に安樂の地位を求るは大抵肉体の安樂にして心の上にかゝれるものよあらぞ夫の家柄ハ何商賣よして身代もよろしく公債の若干も貯え小金の多少も人に貸せりなんど言ハゞ娘を茲によめ入らせなば終身の安樂此上なうらんと思ふとなべての父母の心なり特に知らず乞食にも極樂ありて富げんに反つて苦み多し一身の安樂ハ錦と着て美味を食ひたるときにあらぞしぞ糟糠の味ひ、襤褸のかざりも心次第にて反つて樂みあるものなり左れバ父母ハ娘の安樂と求めんとならバ宜しく其心にのなふべき安樂とこそ得させんとそべし之を身代よく貯畜多く衣食足りたる家に嫁しなバこれにて終身の安樂を得させだりと思ふは大ある過なり然らざるも或ハ父母と父母との交際より其子供等を幼きうちより言ひなづけさせ年とりて互に好まざるをも只だ巳等の好に隨ひ強て之を妻はす如きもし之と承知せざるときハ親の命に背く不幸者と叱りてらして人非人の樣に思ふ如き尤もおろらしき極みなり如此き壓制の婚姻より成りだる夫婦ば永久しく相助け相なぐさむる瑟琴のめうととならんとハ決して望む可らざる也

よし又幸にして娘のゑらみに任ぞる寛大の父母ありとも娘の擇む所ろの不注意なること亦あやまちの二つなり人の性質ハ顔のみめよきにて知るべきにあらぞ英才ソックラットの如きハ鼻ハ平にして天を仰ぎ聖賢孔子の如きも累々として病みたる犬に似たりとのや然ると只だ假初の出會に見そめて終身の運を托する如きは甚しき不心得ならぞや又女は兎角に心の動き易きものなり

父母のほむる人はまだ見ぬさきより已でに慕はしく思ひ初は心にくしと思ひたる人も他人の評判かまびすしければ忽ちに心を傾くるなんどかろ〴〵しきこと限りなし又いさゝかの温言を以てなぐさめらるゝときは其人を直ちに親切なる者と信じ親切と云へる二字のうちにも英雄も學者も才子も悉くこもり居るとのやうに思ふよしは實際を知る人のよく悟る所ならん此の如きはなべて女の性質なりとは雖も我國現今の娘嬢には特に此の弊あるを見るなりかゝる不注意を以て擇みたる夫は暫時の間に温言を變じて罵詈となし親切をかへて慘酷となし其妻を下婢の如く取扱ふこと當然の有樣なりよし然らずとも人は性質に所云る合性なるものありて甚だ不思儀なる縁あること常とす此佳人に適すべき才子は必しも他の妙齢の好む所ならず此の秀才に宜しきの賢女は必しも他の少年に適するものにあらず言ひがたく述べがたき一種の氣相通じて初て瑟琴の和樂あるべきものゆゑ父母のほめ言葉他人の評判はたとひよく其人となりを述べたりとも此れ必しも自分に宜しきの人ならず故に此等に委頼して一生の夫を定る不注意は勢ひの罰を免るゝこと能はざるもの也

當今の婚姻は要するに此の二大弊ありて百の害つぎて起る故に先づ父母と娘との心得を改めてよく始をつゝしまんこと大切也

●新報

○女子の演説　此頃新聞紙の廣告にて横濱の某方に數多の人の演説あるよしを報じたる末に女子三人の名をも併て揭げたり如何なることをや演べ玉ふならんと問合せたるに警察署の認可なくして遂に公衆に臨まれざりしよしにきくは吾人の反て喜ぶ所なり民權論の一時喧しかりし頃は大坂に岸田俊子の演説あり加賀に藝妓の物眞似あり其后東京にも某と云ふ女の演説ありたるが吾人は其都度之を視せず寧ろ心中に不快の思ありたりき蓋し女子の務むべき所ろ今まや甚だ多し其の同性中の交濟すら未だ行れず其同性中の演説すら未だ行れず然るに突然として男子公衆に對ひて演説あるとうの温雅の貞を失ふを固より先づ事の順序を誤るものと云ふべし歐米の婦人すら國家非常の事ありて情の止を得ざることあるに非ずんば決して男子に對して演説を試ることなし其の同性に向ひて說を演べらるゝときも若し男子席に臨むときは直に之を中止するを禮と思ふ程あり女權の隆んなる歐米に於てすら温雅の貞を尊むこと如何此し然るに吾國の如く女風未だ腐敗の境界より脫出する能はざるときにあたりて早くも斯る過度の行あらんと吾人の大に不快とする所なり若し夫れ眞正に日本の婦女を憫み其の改良策に熱心さるゝの貴女あらば何んぞ

先づ有力なる婦人會を組織し若くハ其の同性中に遊説して温雅に且つ靜肅に其の策を行ひ玉ハざる凡ろ眞正の先覺先醒たらんとする者ハ其の一擧一動を最も謹愼せざる可らず

○婦人八千人の歎願　嚢にステッド氏が牢獄より出られたる折數百人の婦女相金を集めて其の功德を慰めたるが今愛蘭コルク郡の貴婦人八千人ハ連署して愛蘭自治の議を非とする歎願書を英國女皇陛下に上りしが右の連名中一千人はカソリック宗のものなるよし其願の趣の可否ハ暫く措く歐米の婦人がつねに斯く世事を憂ひ且つ之を憂ふるには同性相一致して有力温雅なる結合となすこそ感歎の至りなれ

○女子親交會　米國に行るゝ女子親交會の仕組を聞くに此會は今より二十五六年前に英國にて貴婦人達の創設したる同樣の結社の組織に倣ひ「プロテスタント、エピスコーパル」教會の世話にて去る千八百七十七年中始めて創立したるものなるが爾後追々盛大に赴き今は合衆國内に六十九の支社ありて其人員ハ二千五百八十餘人ある由元來此會は主として年少き未婚の婦人にして種々の職業に從事するものゝ爲めに設けたるものにて其目的の要領は會員の交誼を敦ふし其德義を進め傍らに此等の女子に無害有益なる遊戲の場處と方便とを與ふるに在り左れバ本支社の在る所にては各一室を借受けて之を文庫となし樂器等も其中に備へ置き會員たるものは誰にても每夕此處に來遊するを得ることとなし且つ一週間に一度ヅヽ隨意談會やうのものを開き又折々講談會音樂會等の催しもあり又世上に有りとある繪入新聞雜誌等は悉く文庫中に備置き會員たる者は隨意に書籍其他を借覽するの特許あり此會ハ會員より少しづゝの金を醵集して之を維持し敢て慈善家の助力を仰がず又入會を望むものハ人物の正しきものにて二三の簡單なる規則を守るべき諾約をなすときは何人にても入會するを得尤も其年齡は十四年以上の定めなれども十四年以下のものも會員となるもの多しと云ふ日本にても近頃有志者が諸處にて女子交際會と設くるの企てある由なれバ其等の人々の參考の爲め斯くハ記しぬ(五月四日時事新報)

○女生徒の手內職　大坂婦人基督教傳道會の女生徒ハ昨秋以來學課の暇を以て手袋靴下等の編物に從事し既に編上げたる高の多分となりしかバ本月上旬商家の手を經て神戸在留の或る外商に賣込みしに其益金凡そ二百有餘圓を得たれバ此の金員を以て布教の資に充てんことを思立ち此程布教委員の選擧會を開きしに伊藤テツ子外一名が當選し兩人ハ去る二十二日伊勢路を指して出立せし由又大坂西區土佐堀裏町なる梅花女學校の女生徒十

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

七名は申合の上本年一月以來學課の餘暇を以て種々の細工物又は市松人形抔を製し是れ亦商家の手を經て此程米國桑港へ向け輸出せし由なり

○小野通の追善　天正年間に才女の聞え高かりし織田右府の侍女小野のお通が淨瑠璃の祖たるよしは世人の既に知る處なるが昨今兩日午后六時より下京二十二組清水四丁目地主神社御旅所にて同五丁目の山本濟之助が會主となり素人淨瑠璃を興行して其追善會を開くと云ふ(五月八日中外電報)

○貴女紳士の決鬪　露領ウアルソーに一紳士あり近き頃某貴女に懸想して之に親切せんことを求めけるにすげなくも拒絶せられしかバ戀の叶はぬ意趣晴らさに有る事無き事取混せて色々と貴女を誹謗し名譽を毀けたるが元にて豫て貴女に親みある紳士等ハ健氣にも貴女の名譽を雪むるが爲め決鬪を某紳士に申入るべしとて其趣を貴女に語りしに貴女ハ答へて若し妾の名譽を雪むるが爲めに決鬪の必要ならんにも妾も自から決鬪者たらんとの思案なりと云ひて遂に彼の紳士と決鬪を試むるに決しぬ尤も貴女は唯名譽を雪むる迄に決鬪するとなれバ固より相手を擊殺する所存とてハあらざりし扨て貴女ハ決鬪狀を認めて之を相手に送りしに忽ち承諾の旨を答へ乃ち双方の決鬪者ハウアルソーの郊外なる某所に會合して決鬪を試みけり第一回の銃發にては双方共に狙を過りたるに付貴女は尙も第二回を試みんことを求めたるが其介添ハ名譽回復ハ是にて充分なりとて貴女を制し相手の紳士も貴女の勇氣に感動せるの餘り遂に謝罪狀を出して其承諾を得たりと云ふ(五月八日報知新聞)

○仁勇の婦人　米國インデペンデント郡のモードロングと云へる婦人は一人の狂人が二人の小兒を雪中に置去りたるを救はんが爲めに中夜嚴寒を犯して三英里の途を馳行き右の小兒を救ひたるに付カンサス府の市民等ハ其仁勇の行を表章せる爲めに金時計一個とダイヤモンドの指環に金三百弗を添へて同人に贈りたるよし(五月四日時事新報)

○美人の勢力兩國の和親を保つ　主權ハ婦女子にありとハ歐米の風を冷笑したる酷評なるが幾分か其實なきにしもあらざる(一家の主權妻君に在る事ハ我國にても珍しからず)固より今日ハ世の中も開らけ行きて歐洲諸國にハ憲章も備はりたれバ婦人の身として喙を政治上の事に容るゝが如きことハ非ざれども古ハ斯る事ハ珍しからず既に婦人の結びたる條約さえある程なれば其他の事ハ推しても知るべし爰に此度歐洲にて新刊になりたるフオルネロン氏編纂のポルツマウス女公の傳を見るに婦人の勢力

大國の安危存亡を繫ぎたる一話あり今を距ると殆んど二百年佛には路易十四世の如き主ありて天下に覇たるの志あり英には何とか申せし君ありて敢て非望を抱かれしとにはあらねども何と申すも英國の勢力歐洲に一二を爭ふ國なれば此國を後ろに扣へ居ては路易十四世が常に後顧の憂へあり手を他國に伸ばすと能はざりき左れば路易皇は如何にもして英國の歡心を得之れを同盟たらしめんと工夫を凝らせしかども尋常の外交手段にては迚ても其目的を達すべくもあらざと思惟し忽ち一策を按じ出し其皇族の中にもいと尊きオリヤン女公を選びて英佛同盟聯合の條約を結ぶべき特命大使に任じ其隨行にはルイズドケルーアルーと云へる一佳人を伴はしめたり此ルイズは其時二九の妙齡にして殊に顏色麗はしく此天成の麗質をセンヌの水に磨き揚げたれば其清らかなる水晶をも欺くべし其眉は新月の雲間を出づる如くあざやかに其腰は柳絲の春風に誘はるゝが如くなよやかなり花の都の巴里にさえ當時比ひなしと聞こへたる美人なりければ見る人天女の降來かと眼を眩ます程なれば誰か其笑みを受けて魂を奪はれざらんや况し事は扨置きつオリヤン女公は此婦人を伴ひて英國に渡り英皇に謁して公事を聞こへ參らせ且此婦人をも謁に供へける英皇は一見して打ち驚かせ給ひ御心の中に朕が往にし日巴里に流寓らひし頃多く彼地の貴婦人は更なり名妓をも一見したりけるが未ぞ曾て斯かる優美の婦人を見ざ朕が身帝王の上なき位に登り四海を臣妾とするの勢を保ち錦衣玉食何を望みでか成らざらん然るに未だ斯る艶美を後宮の中に見る能はざりしは殘念なりき如何にもして此婦人と共に春は共に花を賞し秋は共に月を賞めんには此上の望あるべからざと思ひ込まれしより此美人を尊敬せられしと一方ならざ兼ねてより後宮に寵を専らにせしネルキウイン婦人がレーウヲンド女公の御二た方もいづしか寵を失ひて徒らに春の風の仇なるを喞ち秋の風の情なきを嘆き給ひけるとなん斯くてルイズ婦人の勢力は旭の上ぼるが如く誰ありて之れに抗せるものもなかりしかば是より英佛兩國の間もいと親密にあり行きて路易王も更らに後ろを顧るの憂ひはなかりき然れども佛皇は尙ほもルイズの寵の萬一に衰へもやせんと掛念せられせボリン女公ホルテンシヤマンシニと云へるルイズには優さるとも劣りもやらぬ佳人を選り出し男子の粧に出て立たせ再び之れを英皇の許に贈られけるが英皇は之にも將さは御心を奪はれんとし給ひしにルイズの勢力尙ほも衰へざりしかバ佛國大使バルリヤンは稍や安心の思を爲し本國皇に上申しけるも最はや佛皇は英國にては何物にても購ひ得られざるはなし國皇

なり妾妃なり政事家なり何れも之れを購ふことを得べしと申せしとかや彼の主權女子にありと云ふも斯る事をや評しけん（事實は本年四月廿一日メール新聞に據る）と去る廿二日の東京日々新聞に見ゆ

○米國大統領結婚の噂　米國大統領クリーヴランド氏は四十餘歳にして尙獨身なるが氏は今度紐育に住むワンベクテンと云へる年若き貴婦人と結婚の約束を爲したりとの噂ある由

●叢話

○五音のかへし　（其二）

春の野にあさるきゞすの妻戀にとのがありかを人に知れつゝ

又父母ともに同行にあるときは譬へばとある此れはられにて人に知らるゝなり此反し樣は父母ともにウ行にあれば父字は竪にゆけども母字は横にゆくかたなくして父字はゆきあたりたる所の母字のれ文字即ち反り字なり故にこれと云ひて知られといふ意となるなり又父母ともに全段にあるとき譬へば

淡路島通ふ千鳥のなく聲に幾夜ねざめぬ須磨の關守

此のぬはぬるにて寐ざめぬるなり（寐ざめぞと云ふにはあらぞ）此の反しやうは父母ともに同じ三段にあれば母字は横にゆけども父字は竪にゆく方なくして母字のゆきあたりたる所の父字のぬ文字即ち反り字なり故にぬと云ひてぬると云ふ意となるなり又一種濁る文字の格あり之も父字濁るときは反字も亦にごるなり譬へば

逢ふ事のたえてしあくばなかなかに人をも身をも怨ざらまし

此のざはぞあにて恨みぞあらましなり此反しやうは父字のぞもサ行の三段にあり母字のあはア行の一段にありて前のけりの反しやうのごとく行合ひたる所のざ文字反り字なり然し父字濁るが爲に反り字も亦にごりてざとなるなりみやび、さとびも同じふりの反しにて大宮ぶり、里ぶり、なれども父字ぶと濁るゆゑに反り字は又びとなるなり偖此反しやうは前に云へる如く約言なれば之とうらうえにして一字と二字に延べて古言と辨ふる事あり譬へば

あかなくにやすらへ空の時鳥夏くはゝれる年もまれなり

此なくも反のぬにてあかぬと云ふ事なれどもあかぬと云ひては歌の調にかなはざるが爲に延てよみたるなり又くさぐさへらふ見れば心くるしものろふは反しるにて反る見ればのとかくそふべしやのろふは反しそにてかくすべしやのとなり　（未完）

○西洋禮式　（第六）

左は英字獨立新聞に掲げられたるものを巖本ご請ひ得て抄出せるところあり

談話の禮

一　歐米にては談話をよくするをもて女の一德とせり

二　よく談話するには第一頓智あり第二物覺よろし第三十分の敎育をうけたることの三と要す

三　他の事を談さずしてたゞ自分の事のみを談す人あり此れ宜しからぬ心得なり先づ母親には其の子の事と談し娘子にも昨夜の踏舞夜會の事を談すか又は其の好きたる學文技藝の事を談し作者には其著作の事を談し藝人には其技藝の事を談ずべし此れ談話をよくするものゝ心得なり若し斯る事を談しかゝるときは先方より最と多く答ふるより手前はたゞ之を聽く斗りにてよろしく特に之とき丶て最と面白く覺ふるやう思はするを得べし

四　相手の職業の事を談すべからず余りに述るときもへつらふ如く見ゆも然れど又た自分の技藝と余多く談す可らず其外の事を知らざる如く見ゆるなり

五　上等社會の談には諺を用ゆ可らず滑稽は亦た嚴禁す

六　人の談しをるを途中にて止るは譬へば道ゆく人の前を塞ぎて歩さを止るが如し失敬此上なきことなり

七　集會の節密語するは失禮なり人の前にて二人してきこえざるやう內所談をるは尙更に失禮なり

八　談すときは相手の顏を見るべし尤も余り見つむるは惡しゝ

九　邦客あるとき邦語とよく瞭解せざる外國人あらば成べく其國の語をもて談しかぐるを禮儀とす

十　自分の知らざることは之を知らんと思ふときの外は決して談すべからず

十一　人を非毀することは決してなすべからず尤も卑しきこととして之をさくべし

十二　談話の最中に客來り尙ほ其談話をつゞくるときは其以前に談したるあらましと畧叙するを禮儀とす

（未完）

○日本婚禮の風俗集（二）

羽州米澤の荻村にても媒するもの女のかたに行て其女を待受て先媒の傍に臥せしむる事三夜にして餅を圓く作りて百八媒者背負て女を連てゆき其禮を調ふ七日にして蒸飯を添て父母の安を問に歸らしむ此等の送迎には村中の少年五六人にて往還す其婚姻の夜も少年を遣て女の道具を負來らしむ其時に負來て土足にて上にあかり出んとす是を其荷縄と共に忽ちにとら

んと相爭ひ其荷繩をとらんとす取るを手柄とし取らざるを手柄とせし何にもして酒肴を進めて大に醉しむ(中陵漫錄)

淡路洲本より來りたる人の話に此處にかつぎと云ふ事あり士族間には行はれし平民の中にて妻を迎ふるには間ま此かつぎ法によるとなり其の夫となるべき人其朋友數人をかたらひ妻と爲さんと思ふ女の外出の折を窺ひ道に之を要し大勢にて奪ひとり擔ぎて夫の家に連れゆき泣さけぶともかまはれし無法に口中に鐵漿を塗り付させ斯して后婦の兩親へ人を以て其女を妻とせんことを云ひ納る風習ありて今日は擔ぎが幾つありしなど此處彼處にぞ行はるゝと云ふ(白井光太郎君)

千葉縣近在にて遠方より嫁來るとき乘掛支度と稱して馬にて道中美々敷よそほひつま折笠といへるをかむり笠のひも赤色馬のたづな紫色其外しぼり好の色のよし而して親族又は媒の宅へ着し衣服をあらため聟の家にいたる七八十年前なせしととて隣人某のかたりたり(同)

又いたご邊にて新嫁の來り始て新年をむかへし元朝五六人の男鉦太鼓にてはやし墨を多くそり小桶に入れ刷毛を添へて持來り其者云く當年はじよろさん(嫁と云ふ)御出來なさいましてお目出たう御祝を致しましやう此時新郎心得て祝儀を出す祝儀身分より少き際は嫁の顏へ墨を塗りて歸る是亦七八十年前になせしとなり(同)

滋賀縣下の郡名は失念せしが田上村と云ふ所にては婚姻の席に嫁手拭をかむり盃をさし終りて親族にあいさつの時其手拭を落すを昔よりのならはしとす何の爲ぞと云ふに髮の飾を見せるためなりと手拭の摸樣は赤青色にして松竹梅鶴龜などを染出すと云ふ(同)

友人の談に美作國勝北郡勝南郡吉野郡の邊にては婚禮の夜坐席の障子をあけ離し公衆に見せしむ群衆は之をながめて新郎新婦をいろ〳〵に評判惡口するとも自由なり若し障子を引立なば石を投付て禮式を妨るを常とす且つ其夜は石又は牛糞などを祝にとて持ち行くものあり。嫁が家を出るときも平常食事に用ひたる茶椀を毀ち復た歸らじと誓ふ。十月亥の日にて子供等大なる石と繩にて四方より吊るし恰も石搗きの如き樣にて大勢ひめき立て當年婚禮したる家の庭に入りて石づきし祝の歌をうたひ乍ら大なる穴をあくるを家内の人も吉禮として喜ぶ狀あり(巖本善治)

但馬出石邊にては五月の節句、同霄田村邊にては正月十五日に葛蒲又は藁に石をつゝみ嫁の臀を叩く尤も今は尋常の下婢と

も叩く嫁入后出石の町方にてハ夜よめと連あるき士族及村方よては晝あるく夜あるくには附そひの者特更よ提燈とよめの顔に近くさし出そなり同國竹田及び丹後岩瀧にてハ嫁入の途中石を投付け其后も砂泥石などを所ゑらバず投付く尤も現今は怨あるものゝみ爲せども之を怒ると能はざるハ昔一汎よ行ハれたる余習の故ならん播州福本林田邊よてハ新夫が正月の禮にあるくとき水とかゝると六七年前余れありしころは尚行されたり(巖本善治)

吾人が此の風俗集を編集するの主意と讀者に請ふ所とは前號に述べたる如し讀者の之を誤解さるゝとなきを切望す故に次号よりハ西洋當今の婚姻風俗と說き惡風の速よ滅じて美俗の早く行ハれんとを勸奬そべしと云ふ

○東西女子の評(上)

人間の幸と不幸とも妻の賢愚よあり
貞婦よく夫を教ふ○寡言ハ婦人の美德○
夫の賢愚ハ其の妻を見て知るべし
夫ハ妻を敬へバ妻亦夫を敬ふ
女の權威は舌の頭にあり
無學なる美婦人ハ造作なき家の如し
善良なる婦人にハ他人の惡事を見聞そる耳目なし
妻の異見は先をとまて後をすつべし
不德ある妻ハ味なき酒の如し
穩和に過る夫ハ暴にそぐる妻をもつ
女の一髮も牛車と引く力よりも强し
以上西洋に行ハるゝ諺あり

女の髮すぢにてよれる綱にハ大象もよくつながれ女のハけるあしだにて作れる笛にハ秋の鹿必ぞよる(徒然草)

婦人ハおほく少壯のときに富貴を享けて暮年には無聊なるものなり(世範)

家貧しければ良妻と思ふ(李克)

女は己を悅ぶ者の爲に容づくる(豫讓)

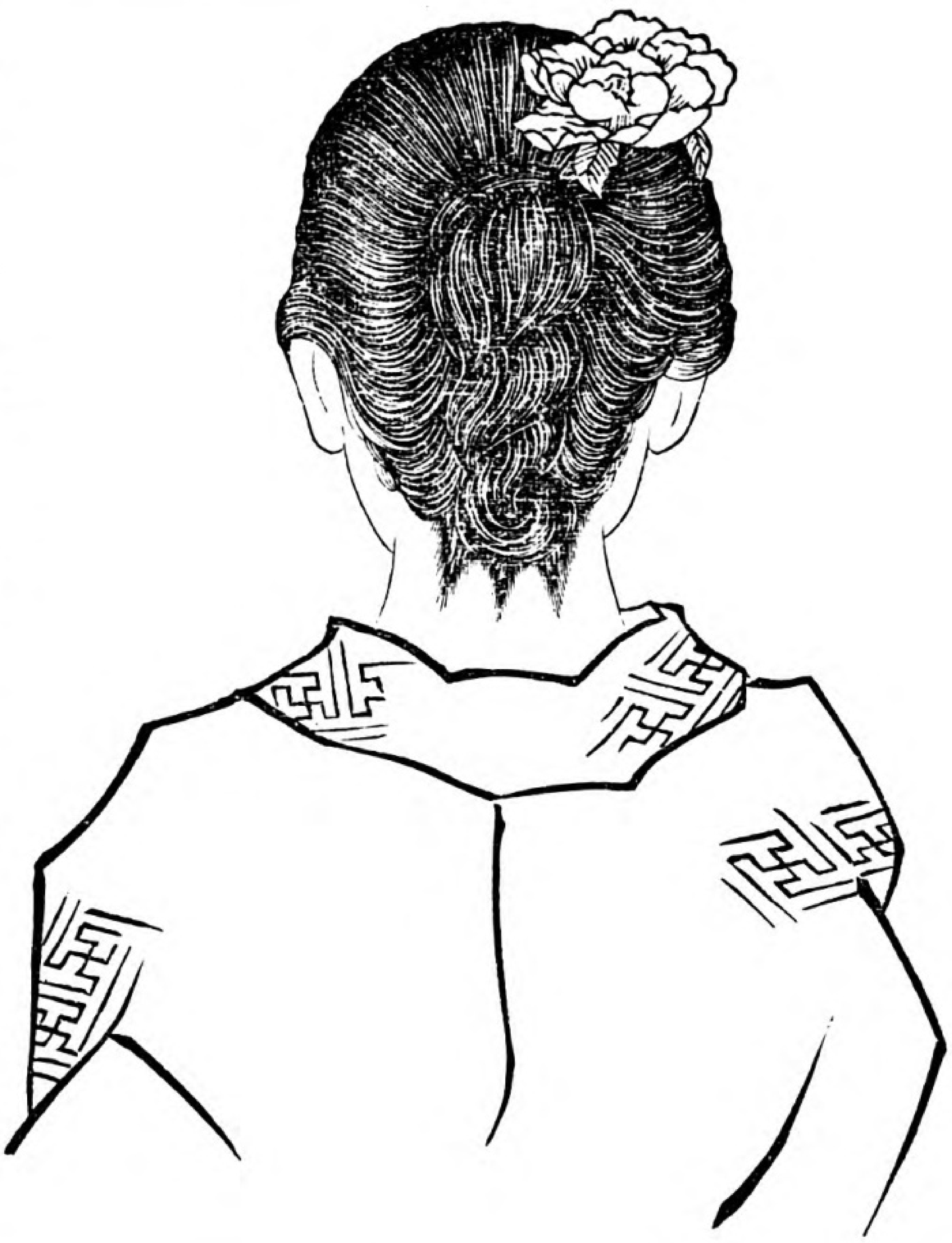
女ハ美惡となく宮に入れバ妒まる(太史公)

○束髮圖解(二)

(和崎結び)の結び方は先づ第一渡邊巻きの如く根元を討紐にて結び其れ髮毛を右の方へ二三度ねじり而して五六寸許りの所より打り返して其の毛先きと根元へ巻きつけ其の打り返したるものを再び根元へ返して恰も從來のおバこの如くなして其をヘーアピンよて留むるものなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

和崎結び　第壹圖



第貳圖ハ第壹圖の變形なり則ち第壹圖に垂下したる部を一巻き返廻して上方に向さしめへーアピンを以て固定する者なり而して是を再び第壹圖に復せんとするには固定用のへーアピンを取去り一廻しすべし

和崎結び　第貳圖

●寄書

左の一篇ハ今回創立ありたる麹町女子交濟會の發起人吉田氏の寄送にかゝるものあり以后毎月一回と期し本誌上に此問答と寄せらるべき由に付茲に先づ其第一回を収むと云ふ

婦人問答（第一）　吉田京佐　戯稿

鳥渡お古チヤン○アナタ何處へ行ルノ○ドナタカト思タラれ新サン御久シ振デスネー其后ハ御機嫌ヨウ相變ラズ御達者デ御目出

度而シテ「アナタ」ハ今ニ學校ヘ御通ヒデスカ○ハイ矢張毎日學校通デスお古チヤン○ハモウ學校ヲ御止シナサヘマシタノデスカ○ハイ○私ハモウ學校ハ昨年限デ今デハ御師匠サンノ處エ計リ毎日三絃ヤ踊躍ノ稽古ニ參リマスノサ○夫レデハ隨分御上達ニ御成リデシヨウネー」○于時お古チヤン何故貴婦ハ學校ヲ御止シナサレターデス○オヤ改ツタ御尋ネデスネー學校ハ小兒ノ時通ヒマスモノデ私抔ノ樣ニ新造ニ成リテハ踊躍ヤ三絃ヲ稽古スルモノト確然ト古昔カラ相場ガ極リテ居マスカラサ」○れ新チヤンノ樣ニ何時迄モ學校通ヲスルト○人中ニ出テ踊躍ヤ三絃デ耻辱ヲカクト如何センモノオ○ヲヤ是レハオツナ事ヲ御言ダネイ踊躍ヤ三絃デ耻ヲカク樣ナ世の中ト時代ガ違マス私トテモ間暇サヘアレバ三絃ヤ踊躍モ稽古シマシヨウト思ヒマスケレド中々此節ノ世ノ中ハソンナ愚味ナヿデ此貴月日ヲ送ル樣デハ仕方アリマセンカラサ」○れ新チヤン生意氣ナヿ御言デアリマセンヨ如何貴婦ガ學校デ新シヒヿ許稽古ナサルトテ私ノ稽古スルモノヲソウ惡ウ言フモノデハアリマセンヨ私ノ考デハ當節柄爲ニナルモノハ三絃ヤ踊躍ニ上越モノハ無ヒト思フワ○」如何ナレバ第一人ノ心ヲ喜バセ又二ツニハ運動ニモナリ其上万一ノ時ニハ此レハ生活ノ道モ立チマシヽ實ニ便宜ノ稽古事デ人ニ可愛ガラルヽニハ三絃ヤ踊躍ニ越シタモノハアリマセンヨ貴婦モ早ウ學校通ヲ御止シナスツテ私ト一處ニ御師匠サンノ處ニ御出デナサヘヤネー○否デスヨ貴婦ノ樣ニソンナ愚味タ心懸ノ私デハアリマセンヨ○コウ申シタラサゾ御腹モ立マシヨウガ貴婦ハ一体世ノ中ニ生レタ者ハドウ云フ事ヲ爲セバ婦人ノ道ダト思ヒナサリマスカ○是レハ又オツナ事御問デスネー古昔トテ今トテ女ノ道ニ異ハアリマスマヒ矢張女ト云フモノハ第一讀書裁縫三絃踊躍ヲシヨウ併シ讀書ハ假名交ノ文サヘ書ケレバ女ニハ足ルモノデスカラ貴婦ノ樣ニ何時迄モ學校通ヒハチト御氣長ノ御氣質カト存マス○オヤ々ソノ樣ノ事ガ女ノ道デシヨウカ私ハソンナ事ニハ氣ヲ取ラレマセン第一女ト云フモノヽ爲スベキ事ヲ貴婦ハソンナ事デ足ルモノトナサルヨウデハドウシテモ古昔ヨリ女ノ卑マレタル風習ガ改タマリマセンヨ私ハ及バズナガラ古昔ヨリ女ノ卑メラレタル地位ヲ高メント此年月マデ學校通ヲスルノデス凡ソ男女ノ性ハ異リテモ同ジク人間デハアリマセンカソレニ男ダカラ尊ヒノ女ダカラ卑ヒノト云フ譯ガアリマスマヒ」ツマリ古ヨリ今日迄女ノ卑シメラレタハ其務ムル處ノ足リナヒ爲デ女トテモ學文サヘシマシタラ男ニ劣ト云フ理屈モアリマスマヒ」ソレダカラ學校ト云フモノガアッテ物事凡テ解ル樣ニ敎ユルノデア

リマセンカ」今日カラ貴婦モ踊躍ヤ三絃ハ事成テノヿニシテ學校ヘ御一處ニ御出デナサヒヨウ」ソウスルト貴婦第一社會ノ道理ヲ弁ヒ二ツニハ人ノ妻トナツテ一家ノ事ヨリ小兒ノ敎育法モ充分ニ出來又不幸ニシテ夫ニ別カレマシテモ他人ノ厄介ニナラズニ一人ヤ二人ノ口ヲ糊スル計リデハナク小兒ノ養育法モ充分ニ行屆キ佗人ニ決シテ恩ガマシイ事ヲ云ハル丶氣文ハアリマセン。コウナルト今マデ卑メラレタ女モ鼻高クナリ男ノ一人ヤ二人ハ使役ル樣ニナルヿ請合デスコレヲコソ女ノ道ヲ盡シタルモノト私ハ思ヒマス又タ此ノ外ニ女ノ道ニハ種々ノ事ガ澤山アリマスケレド第一今日ノ處デハ女モ男ト同ジ樣ニ學文シテ智識ヲ博メ社會ノ實益ヲ計畫男女同權トハ行カズトモ古ヨリノ風習ヲ一洗スルノガ今日女ノ務ルヿデセウドウカ貴婦モ私ト一處ニ學文シテ此風習ヲ改ムル樣ニ御骨折ナサリマセ。成程お新チヤンノ御論シニテ私ハ夢ノ覺タ樣デス失レデハ今日カラ學校通ヲ致シマスカラ御目カケラレテクダサリマセ。于時お新チヤン今般麹町ニ女子交際會ト云フモノガ設立マシタト諸新聞ニアリマスガドウ云フ會ノ旨趣デシヨウ。アー此會ハ私共ニトツテハ有難ヒ程利益ガアリマスカラ多分此女學雜誌ニ精シキヿガ載セテアリマシヨウ何レ明日又タ縷々御話シ申マシヨウサヨウナラト別カル丶際聞立キセシモノハ一狂生ナリ

○舊き都のつと　　横濱　若松　賤

林に宿るさゝき（鳥ノヿ）はわづかなるさゝぐの蔭をたのみ流に水もとむる鼠はたゞはらふくるゝに過ぎず。とは古しへのひぢりのことせる言葉なり。およろもの事はけどもおぼし分るは人のこゝろなり此こゝろに高き賤きふかき淺きたくみ拙なき品いと多かり。かぎりあるこゝろもて限りなきもの事を汲分んとすなればたとひおなじみたらんものを記せればとてされもかきところまち〳〵なれ。かくてころ數多かぬ文の世にあふれ記事などの面白きもあるなれ。鎌倉をみるとなむいへばいと事なりたるやうなれど流石は音に聞えし古しへの都なれば其古跡をもみばやとの望巳難く比しも五月雨のそれ間をうかゞひこゝろゑずの淺さかきもかくしがたきともどちをかたらひひと日金澤の宿と立いでたるは朝まだきにて空うらゝかにはれ渡りいと深ふ露込たる四方の氣色はいまださだかならねどいみじうおゝ敷島〳〵の入江の面にたちなびきたるさまいとさやかにまつらひたる莚の池のごとよてなつ島にたなびく霞は時ならぬ雪かとのみぞあやしまる。しかやくはまのゝむりのいとゞむつしと忍ばるゝ風情漁どりふねのこぐかひに涙の花さくほど水とりの涙の面にたわ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

むるゝさまなどものゝゑやうにも書とらまほしう行んさきも歸らん里もうちわすれ誠に斧の柄もくだけぬ可うなれどかくて有べきならねば深き思ひとゞめつゝ朝ひあてうきりどほしをよぎり鎌くらの道に趣きぬ折しも春の末とて山〳〵の若やかによろほひたる氣はひかきつばたのいだう咲亂れ谷川のミづにちり敷てたやならでむそめたちのまほるらん。おらぬにしきの帶よあたふるも一しほのながめなり。飛鳥川ふちせ常ならぬ世にしあれば時うつり事去り樂しみかなしみゆきかひて花やかなりしあたりも人住ぬ野らとなり。かわらぬ住家は人改まりぬ。桃李ものいはねば誰とともにか昔を語らん」とは法師のうつせみのととかこたれしなり。秋の氣色こそなけれ左大將實定のふるき都と來てみればの歌かまくらのしらぬむかしのあとみるにつけて思ひ出されてあはれなりしかはあれどこの繁き世のならひとて斯なるは古につき秋のかれ葉も梢にこもれる青めに處をもぞりてかなきすさびも愛度榮あるものをミち引いたすつてとなるとわりありて賤がめで仰ぎまつる明なるけふも封建てふ御代になどてゆかりなからん。さるをかくふるき都のミるかげもなき跡をもてはやしはりなきすさびにこゝろのあくがるゝも亦夏の日に埋火のあたたかさを思ひ冬のよに氷ミづの涼さをわすれぬ操あり。

大小名の館とてあないしやのさししめせるをみればこのもかのもはたのうちに庭石のうづもるゝしのなんど生ひ茂れる池のあとゝ思敷がれてるのみにて「宮柱ふと敷たちて萬代といまぞ榮えんかまくらの里」と咏れしきらゝかさは何處にともとむるによしなし此外神社佛閣十の井十の橋さま〴〵あれどくだ〳〵しければ捨置つ。きり通しより七八町へて青砥藤綱のきこえ得しなめり川を渡りて大塔の宮の屋しろに至れり近き頃迄は此宮のおん跡したひまつるもの何をしるべにせんといふやうなりしが明治のミ代の二年はじめて詔下りて此屋しろをいとなませたまふとなり。宮は後醍醐帝の御子にましくはらからの宮にそぐれてさか敷きさがもけ高き心ばえも父みかどはやにとめさせたまひ太子に引上んとまでせさせたまひつるをさかしらなるものゝ聖慮を沮みたるを時の人口惜き事と思ひしとぞ。すでにみかざり落させ法衣を被らせ大塔の宮とぞ申し奉る折しも天下糸の如く亂れぎやくぞく蜂のむらだてるにひとつには父みかどの御心のなやみとやすらげふたつには世のみだれと救わんと人のそしりもいとはで法衣を捨させはかり事をめぐらし雪をふみ山にかくれ近は父みかどをまもりたるうよなん氏と扶けたまふみとぞ遂させぞはかなくならせ給ふは御いたはし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と云んも餘あり。社のうしろの方。宮を入奉し御窟あり神司のとざしひらきて。あないするまゝにとけむそは窟ようらゞひよればわやめも分ちがたけれどこゝろの駒のとゞめかねはるけきいにしへこの宮はいぶせき月日をこゝに重ねたまへる御ありさま南は方のけなげにもまめやかにかしずき侍る御勇ま敷おほんはてのさまどもまのあたりみん心地そ五六間右の方に伊賀のかみのしるし捨し藪ありこゝよりほど遠からぬ石のきだをし七八十登りし山の峯にいとふりたる松の根本にひとつの塚あり首塚となんよべるこゝにしばらく息て昔今を思ひ合せ此君のもし今こゝにましませしならばいかでおほん上へとく〳〵聞あげ駒なべたるみくるまもてむかへ奉り海の外へも幸まし〳〵やがて國の風をもたわめ文明ともたすけたまふあはれめで度きみならんを老松の根のやしなひとそならせ給ふ口惜さよなどろゞろに泪しつ時のたがひもわすれて。いとしめやかにかたるに山櫻のぢりかふる木ゞの梢のさゝめきあふなど。風情を添ふればともれ讀出ける「來てみればしらぬ昔しの花ざくらちりにし山のしたは敷かな」返し「此みよまもうり少きろれならぞカルバリ山をいかにみるらめ」みやびなけれどこゝろばえのうれしさに家づとにして歸りぬ

●佳傳

○梅香女史の傳　　月の舍しのぶ

第八

遠洋を渡る波の舟
世路を歩む人の心

夕日西天の端にかゝりて波に錦あり水煙雲とよそほひて銅の色更に赤し見渡せば渺茫たる大海原風なぎて青き疊を敷ける如く遙に蒼く水涯の一髮は見ぬ外國の港にやと疑はる時は炎熱七月の天なれども海の風に暑を忘れて心地たとふるに物なく所は大方遠州洋の眞中にやあらん濤靜かなれば平地を行くの思あり去れば下等の客は一家の如く中等の客は友どちに似て隨意に放談高笑し自由の界中新に樂地を造り出せるの狀ありけり晩食正に終りて甲版に人多く上等室の邊りあちこちに逍遙するは仲睦じ氣なる洋人なり此中三人の少婦人舳に近き長椅子に集りて物語るさまに見ゆる何れも十八九より二十を齡とすらん一人は着飾り意氣に見えて口元に斷えず笑を製造し特更に辨をつくりて人うらさじの傳を學ぶものゝ如し一人は丈抵けれども肩は少しく直角を畫き風姿自ら角張りて腮を特更に下げ目を沈めて白くするは威容を裝はんとのが得ならむ共に美人の人別中には入るまじきも先づ十人並をこゆる器量なり今一人は容姿淡麗にして琢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

かざれども自ら美なり何となく沈鬱して不快の体に見ゆるも人知れぬ思を思ふなるべし始終海面に散る玉と眺めて碌々答もせざるを一人の女なぐさめぶりゝ談す樣も青山さんマー船も靜かですし月も最早出てませう玆でゆるりと昔しを仕樣じやありませんか(青山)ハア宜しう御座いませう若し松本さんが居らつしやれバ歌も出來ませうに(田中)ホンニ左樣でせう貴方でも松本さんでも學文が進む斗りで羨しう御座います私なんぞハモーいけませんよ(古木)ナニ田中さんも自暴自棄でこそ學文は到底利益がないと云ふ御說ですから(青山)左樣でそかキツイ御變り樣ですネ(田中)又古木さんの御イヂメハ困りますよ然し學校に居まして卒業したらバ日本婦人の先導となるとか女權を擴張して女流の睡眠をさますとの申し合ました昔ハまだ罪が無つたのでせう實際にハ到底もいけませんよ(古木)ハヽいけんと云ふともありますまい(田中)實際いゝません譯は少し辨を揮へバ生意氣の女だと申して尋常の婦人にハ少しも感しがなく亭主ハ氣儘なとをしてはならむなどゝ禁しる斗りで助ては呉ません歐米程に婦人が進みましたら學文も又入用になりませうが今時ハ勉强した丈の効能もありませんから決句學校で苦みました昔を惜しひと思ふ程ですよ(古木)實に喫驚と云ふ斗りです世の人が何と申しましても夫ハ構ふとハ入ません又亭主も巳を助る程の人を擇びましたら心配ハありますまい若し世の中が歐米程に進みましたら云ハゞ私共の力ハ不要です此樣な時ですからこそ尙更ヽ(田中)ソリヤ御尤でそ御尤と云ふとにハ贊成ですが實際貴方の樣に教師の御亭主でもある人ハ宜う御座いませう私なんどは到底學文の効能がありませんよ(古木)青山さん如何です實にあんなとを言れてハ慷慨の至ではありませんか私等ハ及バずとも愚夫もろとも日本婦人の改革に熱心盡力そる積で御座いますものを(青山)ホヽ隨分面白い御議論でそが然し兩君とも御尤じやありませんか學校を卒業したから女教師になるべきものと限りもしますまい又商人の妻となつたからとて學文が不用と云ふともありますまい私なんぞハ夫もなけれバ助手もなし友立と僅に力を併す計りです夫にしてもアノ澤山さんハ何樣なさいましたか(古木)澤山さんは實に私等の手本です此頃ハ大坂で連りに民權主張の演說に奔走さるゝよし手紙がありました(田中)今度會ひましたら御覽なさい切度私が澤山さんを導きますよ亭主なしに獨立して遊說奔走するなどとハ學校に居つた昔言とでそ」

古木は今ま高橋渡の妻にて田中は古木の別家古木才三の妻なり只便利の爲め舊名を召びて夫の性を記さむ看る人察し玉へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○教育報知

教育報知ハ我カ邦ノ教育ニ取リテ一廉ノ役目ヲ盡ス所ノ雜誌ナリ其ノ記載スル所ノ事項ハ學校教師ノ服膺スヘキモノ教育事務者ノ參考スヘキモノ一般父兄ノ注意スヘキモノ擧テ備ハラサルコトナシ故ニ教育報知ヲ讀ム者ハ教育全班ノ景狀理論ヲ悉知スルコトヲ得ヘシ特ニ教育ニ在リテハ其ノ利益スル所更ニ大ナリトス爰ニ其ノ大要ヲ述ベン

一教育者タルモノ智德涵養ノ目的ヲ達セントセハ須ラク教育心理ノ二學ニ通曉セサルヘカラス教育報知ハ主トシテ教育ノ原理其ノ方法及ヒ心性啓發ノ理論其ノ應用ヲ論述ス故ニ一部ノ教育書及ヒ心理書ヲ見ルカ如シ

一教育者タルモノ世ノ日新開明ニ伴ハント欲セハ豫メ內外教育ノ事情ヲ審カニシ改良上進ノ工夫ヲ用ヰサルヘカラス教育報知ハ常ニ內外教育ノ實況ヲ網羅シテ時論ノ如何ヲ告知ス故ニ教育前途ノ指南針ヲ望ムカ如シ

一教育者タルモノハ常ニ學識アリ經驗アル大學諸子ニ隨從シ自己ノ材料ヲ增サヽルヘカラス教育報知ハ教育諸大家ノ高論卓說ヲ錄載シテ專ラ其ノ資ニ供ス故ニ恰カモ良師ニ親炙スルカ如シ

一教育者タルモノハ常ニ同志ヲ得テ有無相通シ彼是相資クルノ便ナカルヘカラス教育報知ハ其ノ中間媒介ノ地ニ立チテ務メテ教育ノ氣脈ヲ通暢ス故ニ恰カモ良友一堂ニ相會スルカ如シ

以上列記スル如ク其ノ便益ヤ實ニ鴻大ニシテ又極メテ價直アルモノトス然ルニ紙面ノ高貴ナルニモ拘ハラス其ノ價ノ低廉ナル或ハ世人ノ怪ム所トナルモ亦未タ知ルヘカラスト雖モ教育報知ノ發行ハ素ヨリ射利ノ目的ニ出ツルニ非スシテ唯我カ邦教育ノ一日モ早ク隆昌ニ至ランヿヲ企圖スルニ在リ觀者宜シク微意ノ存スル所ヲ察シ愛讀ノ勞ヲ借ムナクンハ幸甚

一教育報知ハ一行二十二字詰ニテ二十七行三段ヲ一頁トシ每號二十頁乃至二十六頁ヲ以テ一部ヲナシ每月三回ノ發刊トス

一教育報知ヲ購讀セントスル諸君ハ十部乃至二十部ノ前金ト其ノ郵便稅トヲ添テ本社若クハ賣捌所ヘ通知セラルレハ直ニ遞送スヘシ

一教育報知ノ代價ハ左表ノ如シ

部數	代價	郵稅	合計
一部	五錢	一錢	六錢
十部	四十五錢	十錢	五十五錢
二十部	八十五錢	二十錢	一圓五錢

一教育報知ヲ數校若クハ數人組合一所ヨリ注文セラルヽ片ハ左ノ如ク別段ノ直引ヲナス可シ

拾部以上	三拾部以內	壹部ニ付四錢ノ割
三拾一部以上	七拾部以內	壹部ニ付三錢五厘ノ割
七拾一部以上		壹部ニ付三錢ノ割

但シ遞送料ハ此外ニ申受ク且ツ又其ノ指示ニヨリテハ銘々配達スヘシ

發行所　東京本鄉區元町一丁目三番地　**教育報知社**

每月刊行 **六合雜誌** 第六十四號

目次○文明ノ前途○フヰスク氏ノ新著ヲ讀ム○西村氏ノ宗教論ヲ駁ス○メスメリズム及スピリチュアリズム○學術、心理學講義○雜錄、成敗の辨、厭世學、天主教と新教との區別○演說、優勝劣敗○定價配達料共一冊拾錢一ヶ年分前金一圓四月廿二日發兌

小崎弘道君著

○政教新論

全一冊洋裝中本百六十頁　定價四十錢郵稅十二錢

目次○第一章今日ハ改革の時代○第二章、從來政教の思想、○第三章、儒教の性質○第四五章儒教の利害○第六章、儒教用ゆ可らざ○第七八章、宗教道德の必要○第九章、儒教と基督教○第十十一章、基督教と文明○第十二章、基督教と改良○第十三章、教會と政府○第十四章、一己人と社會

人生一日も缺く可らざるものは政と教なり邦人政の尊ぶべきを知ると雖も未だ教の重ぞべきを知る者少し本書ハ政教論と題し基督教新聞に掲載したるものを增補校正し之を完了せし者にて我國の新文明と製出する所以及び其關係を論ぞる有益の書なれバ有志の諸君購讀あらんとを

東京京橋區瀧山町六番地　**警醒社**

○開店廣告 非常之大安賣 大勉強之親玉

日本目 元祖印

婦人東髮かもじ附 曲製造賣捌所

○西洋風之品

○かもじ附曲目方大九匁ヨリ小五匁マデ（代價壹圓ヨリ同三拾錢マデ）○婦人夏帽子○留針類○コム製花類○リボン○陀鳥羽根○ビセウ○根留櫛○ゴム櫛○曲アミ○香水香油○ハンケチ○おしろい類○顔掛砂ヨケ類○びん附○石礆類○ようじ歯磨類

○日本風之品

小枕附拔損等ハ三ケ年請合

○丸曲一本二錢五厘ヨリ○島田同十錢ヨリ○わらび同二錢ヨリ○おたあかもじ類○びんみのたぼみの根卷みの○手柄雨輪○男の入毛○いぼ毛類○發明のたぼさしいらぼのたぼミの○同びんミの○附属品たぼさし類○たぼとめびんどめ元結眞なしのまげ入類○其他御好次第

○日本風附曲

○丸曲一個四錢ヨリ○島田曲同三十錢ヨリ○唐人曲同三錢ヨリ○三ツ輪女夫まげ○おばこ○其他御好次第

○各々樣益々御機嫌能珍重ニ奉存候從テ弊店儀諸君之御愛顧ヲ蒙リ日増ニ繁榮仕難有仕合ニ奉存候就テハ爲御禮此度非常大安賣大勉強仕候間舊ニ倍シ御用向被仰付度偏ニ奉願上候也

明治十九年五月二日開店

東京麹町區二丁目九番地

出雲屋熊次郎

爲御便利毎日洗直シ仕候間御風聽之程希フ○御婦人ハへぎはの薄キ御方ハよく成御品無代ニテ差上舛○御婦人御病氣ニテ毛なき御方ハ工夫致候

○明治發句集

月並 題 五月雨 扇 蚊 菁田 卯ノ花 五句合

入花一組四錢二ノ七錢三ヨリハ二錢増府外ハ返草税別ニ二錢ヲ要ス以上郵券代用ニテモヨロシ但シ一錢形ノヿ

評者 著作道人先生

先生嘗テ東京月並百々一會ノ評者タリシガ其博渉巨眼ナル尋常徘徊者流ノ類ニ非ズ四方ノ雅君競フテ御投句アレ〆切六月十日五點以上ハ精細彫刻美冊ニ仕立返草ト共ニ無價呈上○但シ御詠草ハ半紙ヘ御認ノヿ番地御雅名御通稱共ニ御認メ御送付ヲ乞フ

東京麻布富士見町廿六番地 催主 協中堂

著作道人先生詩文和歌添削廣告

絕一首一錢五厘○律同三錢○徘古同六錢○文一章十錢但シ千字以下ノヿ以上ハ五十字毎ニ一錢増○和歌一首五厘ノヿ實際ノ貧生ハ添削料ノ定規ニ拘ラズ○右添削御望ノ諸君ハ協中堂ヘアテ御送付アルヘシ○但シ添削料ハ郵券代用ナラバ二割増ノヿ

每月五の日發 女學雜誌代價郵税表（府内無遞送料）

一冊	正價金四錢	郵税一錢	合計 現金五錢
十冊	前金卅八錢	同十錢	合計 前金四十八錢
廿冊	同七十錢	同廿錢	合計 前金九十錢
卅冊	同壹圓	同卅錢	合計 前金壹圓卅錢

女學雜誌賣捌所

（大賣捌）東京神田區淡路町 巖々堂

東京神田區雉子町 團々社支店
同 神田區佐柄木町 東海堂
同 日本橋區新葭町 良明堂
同 日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同 京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同 本郷區元富士町 盛春堂
同 本郷區春木町二丁目 解明堂
同 牛込區肴町 活神堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝

（支局）東京芝西久保櫻川町 萬春堂

發行所 本局 東京本郷區弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社

持主兼印刷人 瀧田正義
編輯人 近藤賢三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治十九年五月五日發行

日本目 元祖 印

婦人東髪かもじ附 曲製造賣捌所

○西洋風之品
○かもじ附曲目方 大九匁ヨリ 小五匁マデ（代價壹圓ヨリ 同三拾錢マデ）○婦人夏帽子○留針類○ゴム製花類○リボン○陀鳥羽根○ビセウ○根留櫛○ゴム櫛○曲アミ○香水香油○ハンケチ○おしろい類○顔掛砂ヨケ類○びん附○石礆類○ようじ歯磨類
○日本風之品
小枕附拔損等ハ三ヶ年請合
○丸曲一本二錢五厘ヨリ○島田同十錢ヨリ○いらず同二錢ヨリ○おたあかもじ類○びんみのたぼみの根卷みの○手柄兩輪○男の入毛○はり毛類○發明のたぼさしいらずのたぼミの○同びんミの○附屬品たほさし類○たほとめびんどめ元結眞なしのまげ入類○其他御好次第
○日本風附曲
○丸曲一個四錢ヨリ○島田曲同三十錢ヨリ○唐人曲同三錢ヨリ
○三ツ輪女夫まげ○おばこ○其他御好次第
○各々樣益々御機嫌能珍重ニ奉存候從テ弊店儀諸君之御愛顧チ蒙リ日増ニ繁榮仕難有仕合ニ奉存候就テハ爲御禮此度非常大安賣大勉强仕候間舊ニ倍シ御用向被仰付度偏ニ奉願上候也
明治十九年五月二日開店
東京麹町區二丁目九番地
出雲屋熊次郎
爲御便利毎日洗直シ仕候間御風聽之程希フ○御婦人ハへぎゝの薄キ御方ハこく成御品無代ニテ差上舛○御婦人御病氣ニテ毛なき御方ハ工夫致候

○明治發句集

月並 題 五月雨 扇 蚊 青田 卯ノ花 五句合

入花一組四錢二ノ七錢三ヨリハ二錢増府外ハ返草税別ニ二錢チ要ス以上郵劵代用ニテモヨロシ但シ一錢形ノヿ

以上ハ精細彫刻美冊ニ仕立返草ト共ニ無價呈上○但シ御詠草ハ半紙ヘ御認ノヿ番地御雅名御通稱共ニ御認メ御送付チ乞フ

著作道人先生詩文和歌添削廣告

催主 協中堂
東京麻布富士見町廿六番地

絶一首一錢五厘○律同三錢○排古同六錢○文一章十錢但シ千字以下ノヿ以上ハ五十字毎ニ一錢増○和歌一首五厘ノヿ實際ノ貧生ハ添削料ノ定規ニ拘ラズ○右添削御望ノ諸君ハ協中堂ヘアテ御送付アルヘシ○但シ添削料ハ郵劵代用ナラバ二割増ノヿ

女學雜誌代價郵税表（府内無遞送料）

每月五の日發

一冊	正價金四錢	郵税一錢	合計 現金五錢
十冊	前金卅八錢	同十錢	合計 前金四十八錢
廿冊	同七十錢	同廿錢	合計 前金九十錢
卅冊	同壹圓	同卅錢	合計 前金壹圓卅錢

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌）巖々堂
東京神田區雉子町 團々社支店
同神田區佐柄木町 東海堂
同日本橋區新葭町 眞明堂
同日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同本郷區元富士町 盛春堂
同本郷區春木町二丁目 解明堂
同牛込區肴町 活神堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
東京芝西久保櫻川町（支局）萬春堂

發行所 本局 東京本郷區弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社
持主兼印刷人 瀧田正義
編輯人 近藤賢三

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY